

パウロの祈り その一

コロサイ1：9-14

1:9 こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。 1:10 また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。 1:11 また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、 1:12 また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる神に、喜びをもって感謝をささげることができますように。 1:13 神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。 1:14 この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

導入

今朝も引き続き祈りについて学びます。これまでに、とりなしの祈りをささげる特権に与るにはまず神とつながっている必要があることを弟子の祈りから学びました。また、自分自身のニーズについて神に願い求める前に、神がどういうお方であるかを認識し、そのご人格を賛美し感謝をささげなければならないことも学びました。

先週の学びでは、集合体の祈りの大切さを学びました。失われたたましいを勝ち取る戦いにおいて教会が用いられたいと願うなら、教会全体での祈りは一度限りのものではなく、継続的に行われなければなりません。真のリバイバルは起こりえますが、そのためには私たちの祈りが必要であることも学びました。

これから、新約聖書のパウロの祈りからいくつかのことを学んでいきます。

まず今日は、コロサイ1章9-14節のパウロの祈りを見ていきます。

パウロとコロサイの教会の関係とこの教会について多少知っておくと学びがわかりやすくなるでしょう。

コロサイはエペソから約130kmのところにあります。西洋と東洋の交わる場所であり、人の往来の多い主要道路に面していました。

東洋の教えや哲学など目新しい思想に感化されたコロサイにはユダヤ人街がありました。

コロサイの教会を開拓したのはパウロではありません。この教会は、エペソでのパウロの働きがきっかけで生まれました。パウロがエペソで伝道していた際に、二人の人がクリスチャンになりました。エパfrasとピレモンです（ピレモン19節）。

このふたりの信徒たちがコロサイの教会を開拓しました。この教会の大半の信徒は異邦人で、パ

ウロが彼らに手紙を書き送った当時、教会は大きな問題を抱えていました。彼らの間に偽りの教えが入り込んでいたのです。この手紙を記したころ、パウロは投獄中でしたが、獄中で知り合った人に証し、その人はクリスチャンになりました。彼は、ピレモンのものを盗んで逃げた元召使でした。パウロはエパfrasが訪ねてきたときに、教会の問題を聞いて知りました。このエパfrasが手紙を教会に持ち帰ったと考えられます。

この手紙の中にパウロの祈りが含まれています。この祈りから、どのようにとりなしの祈りをささげればよいのかを学んでいきます。

コロサイ1：9-14にあるパウロの祈りの内容に入る前に、注目しておきたい重要なことがふたつあります。

- パウロは実際に会ったことのないクリスチャンのために祈っています。

パウロはコロサイの教会について、そして信徒たちが抱える問題について聞きましたが、実際に知っていたのはピレモンとエパfrasだけです。他は誰も会ったことがありません。私たちも、知っている人のために祈るのはもちろんですが、ときには知らない人のために祈るのもよいことです。イギリスで奉仕していた教会では、先週のように牧師が祈りをリードする時間が毎週ありました。そこで私が祈りの必要な人について信徒たちに話します。私たちのまったく知らない人のために祈ることもありました。

私は二週間ごとに、祈禱課題を書いたEメールをイギリスにいる約100名の人たちに送ります。

そのメールを受け取った人たちは、私たち夫婦のために、そして皆さんのために祈ってくれています。祈ってくれている人たちに皆さんが実際に会うことはないかもしれませんが、それでも祈ってくれているのです。このことにどうか励ましを受けていただきたいと思います。

同時に、皆さんも知らない人のために祈ろうと思いませんか。

- パウロは、コロサイの教会のために絶えず祈りました。

パウロがここで言っているのは、日々の祈りの中で祈り続けているということです。パウロはユダヤ人でしたから、毎日三度の祈りをささげる習慣があったでしょう。その祈りのたびに、この教会のことを祈ったということです。これはぜひお手本にしたい姿です。

私には、北アイルランドに住む祈りの同志がいます。その人は80歳を超えた女性です。この人は、私たち夫婦と子どもたちのために25年以上祈ってくれています。最近ご主人を亡くされましたし、体の調子も万全とは言えません。そんな彼女が最近、手紙と一緒に、私が毎日飲まなければならない胃薬を送ってくれました。そこには、日本のための祈り会を再開すると書いてありました。彼女は、月一度の日本のための祈り会をご主人と30年以上開いておられました。

実際に会ったことのない相手でも、その人たちや状況に焦点を絞りつづけて祈るこの姿勢は、見習いたいものです。

では、パウロの祈りの内容を検証し、私たちの祈りにどのように応用できるか学んでいきましょう。

パウロがコロサイの教会のために祈っていることはなんでしょう。

その答えは9節にはっきりと記されています。

パウロは、信徒たちが霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされることを祈っています。

パウロがここで祈っていることを理解するには、パウロの記した手紙の全容を理解する必要があります。

パウロは、新生したクリスチャンにこの手紙を宛てています。しかし、その信徒たちは偽りの教師たちに惑わされていました。この偽教師たちは、信徒たちが教師の教えを受け入れるなら「神についての完全な知識」を得ると教えました。

彼らはグノーシス主義者でした。グノーシス主義者は、神の奥義を自分たちが持っていると感じていました。パウロは、コロサイの信徒たちに必要なのは新たな霊的体験ではなく、すでに得た経験を基に成長していくことだと語りました。

人は、イエス・キリストを信じる信仰によって神の家族の一員として生まれ変わったなら、成長と成熟に必要なものが備わったかたちで新生します。それがこの手紙のテーマです。2:10に「あなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。」とあるとおりです。

「新生」以外に必要な体験などありません。

これを念頭に、パウロがここで祈っている内容をひも解いていきましょう。パウロは、信徒たちが神のみこころに関する真の知識に満たされることを願っています。

「知識」と訳されたギリシャ語の単語には「完全な知識」というニュアンスがあります。

つまり、神について、私たちの人生における神のみこころについて、学べることは際限なくあるということです。神は、私たちが神のみこころを知り、理解することを望まれます（エペソ5:17、使徒22:14）。

みことばを学んで祈ると、私たちは神について新たに発見し、神のみこころを知って喜びます。

パウロは、信徒たちが神のみこころに関する真の知識に「満たされますように」と祈りました。

新約聖書の表現で「満たされる」とは「支配される」ことを意味します。

パウロは、信徒たちが神のみこころの知識に満たされるようにと祈っただけでなく、霊的な知恵と理解力によって満たされるようにと祈りました。

つまりどういうことでしょう。

まず、神がご自身の子たちに望まれる一般的なみこころは聖書にはっきりと記されています。やがて聖書を読むうちに、私たちひとりひとりに対する神のみこころを私たちは知るようになります。

私たちの個別の状況における神のみこころは、神がすでに聖書に示された内容と適合していなければなりません。

一般的な神のみこころをよく知っていれば、個別の状況における神のみこころもわかりやすくなります。

ひとつ例を挙げてみましょう。

ある若い女性が私に悩みを打ち明けました。その女性とはまったくの初対面でした。自分はクリスチャンだと言うこの女性は、ボーイフレンドとの関係で悩みがあるので相談にのってほしいと言いました。

私はまず「そのボーイフレンドはクリスチャンですか」と尋ねました。

「いいえ」と答えた彼女に、「そのお悩みについて神のみこころははっきりしています」と私は言いました。女性は驚いた様子でした。私は、「不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。」というコリント第二6：14のみことばを指摘しました。

その関係を終わらせることが神のみこころであるとはめかすと、彼女は、いっしょに住んでいるのでそんなに簡単にはいかないと言いました。この女性が神のみことばに従う意志を持って聖書を読んでいたなら、最初からその男性と交際したりしなかったでしょう。

すでに入ってしまったこの状況から彼女が脱するのは簡単ではありません。

ノンクリスチャンとの恋愛関係はつねに誤りです。神がそうおっしゃいます。これに従わないと、必ず何らかの問題が起こります。

さて、パウロがコロサイの信徒のために祈った内容に戻りましょう。

パウロは、信徒たちが神のみことばの知識に満たされるようにと祈りました。

神のみことばの知識に満たされると、人生において、クリスチャンとして正しい選択ができる可能性が高くなります。

そういう理由で、牧師からの課題が一年での聖書通読なのです。皆さんが聖書を読むだけでなく従いたいと思ったださることを願います。

そうすれば、皆さんの信仰生活は豊かなものとなるでしょう。

30年ほどまえに聖書学校に通っていたころ、学校には必ず守らなければならない規則がひとつありました。それは、創世記から黙示録まで毎年読むことです。聖書学校は2年制です。一年目は欽

定訳で読み、翌年は自分の好きな訳を選んで読むことができました。

すべての教科で100点を取っても、聖書の年間通読をこなせないと、落第と見なされて修了証書がもらえません。

聖書と祈りを何より大切にする聖書学校に神が私を導いてくださったことを感謝しています。

10節「また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、…」

「主にかなった歩み」とは何でしょう。

その答えは、このみことばの中にあります。すべてにおいて主イエスに喜ばれる生き方です。

パウロがコロサイの信徒たちのために祈っていることは、彼らが受けた召しにふさわしい生き方をするということです。これは、互いのために祈るのに適した内容です。

パウロは引き続き10-14節で、イエスに喜ばれる生き方とはどのようなものか語ります。

パウロは、イエスに喜ばれる生き方の4つの特徴を挙げます。

1. クリスチャンはあらゆる善行において実を結ぶはずです。私たちはイエス・キリストをとおして「恵み」によって救われましたが、私たちが救われたのは、イエスに仕えるためです。

エペソ2 : 10

私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

何らかの形でイエスに仕えていないなら、神に喜ばれる生き方をしているとは言えません。

ヨハネの福音書の学びに戻った際に学ぶことになりましたが、実を結ぶか否かは、イエスが私たちの人生を剪定なさることを受け入れ、霊の実を結ぶのを妨げるものを取り除いていただくかどうかによって決まります。

イエスに仕えるとは、私たちが何かをするのではなく、私たちをとおしてイエスに御業をなしていただくことです。

ヨハネの福音書の学びでこれについては後日お話ししますので、今日はこのトピックについてはあまり掘り下げないことにします。けれども、実を結ぶように皆さんにぜひ祈っていただきたいと思っています。これは聖霊の実であり、私たち自身の実ではありません。私たちが神に人生を明け渡すと、聖霊が私たちのうちにみなぎります。私たちに起こるすべてのことにおいて、神が栄光をお受けになります。

私たち人間は、神の祝福が流れる管に過ぎません。

- 2) イエスに喜ばれる生き方の特徴のふたつめは、神の知識において成長している人です (10節)。

牧師も成長中だと言ったら、皆さんは驚くでしょうか。私は聖書を30年以上学んでいます、神の知識と理解において今も成長途上です。神の理解において成長していないなら、イエスに喜ばれる生き方をしていないことになります。

私は長年聖書を一生懸命学び、宣教の働きで多くの経験を積んできましたが、未だに神の知識と理解において成長を続けています。私たちも互いに、神の知識と理解において成長が止まらないよう祈り合いましょう。

では、人はどのようにして成長するのでしょうか。

その答えは簡単です。すでに学んだヨハネ7：17のみことばとおりです。

神のみことばに従えば、私たちは成長します。それほど単純なことです。神に従うクリスチャンは神の恵みと知識において成長します。

ある一定のことについて神のみことばに従うと、神は私たちを信頼してみこころをさらに示してください。

「什一献金とささげものをささげることについて」を例に話してみましよう。

聖書には、マラキ書やその他の旧約聖書の箇所から、収入の一分を神が求められることがはっきり示されています。旧約聖書では、ささげものは神殿に納め、祭司の生活や神殿の運営のために用いられました。

新約聖書では、献金は教会の働きに用いられるため、地域教会に納めました。イエスもマタイ23：23で什一献金を奨励しています。

マラキは、イスラエルの民が神から盗んでいると非難しました。(マラキ3：8)

牧師が献金のときに、今週神から盗んでいる人は誰ですかと言ったら、皆さんは気分を害されるでしょう。けれども今ここにマラキがいたら、そんなことはおかまいなしにそう言ったでしょう。

私が言いたいのは、私たちが什一献金で神に従えば、神の知識において成長し始めるということです。

なぜなら、什一献金をしても残されたお金でちゃんと生活していけることがわかって励まされるからです。私たちに必要があれば、神はその必要を備えてくださいます。そして私たちの信仰はさらに増します。

神が私たちの必要を備えてくださることがわかり、信仰が急成長します。それに、OICにおける神の働きのためにささげられるのは、大きな祝福です。

これは、ひとつの部分での成長でしかありません。クリスチャン人生には他にも神の知識における成長を遂げられる部分がまだまだ多くあります。

パウロは、神の知識において成長するようにとコロサイの信徒たちのために祈りました。神の知

識において成長するには犠牲が伴います。それは、神のみことばに従うという犠牲です。

成長しているクリスチャンがいるなら、その人は神のみことばに従っているクリスチャンです。

3. 神に喜ばれる生き方をする人の3つめの特徴は、11節に示されています。苦難の中でも神に力をいただいて忍耐する人です。しかも、心に喜びをもって耐える人です。

パウロは、苦難がクリスチャンとして生きることの一部だとよくわかっていました。

彼は多くの苦難に見舞われ、あらゆる試練の中で神の聖霊によって励まされました。

ペリピ¹ : 27-29

1:27 ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができますでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、1:28 また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。それは、彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。これは神から出たことです。1:29 あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。

パウロは、若い牧師テモテに「キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」と警告しました。

ヤコブも1 : 2-4で、苦しみは忍耐を生み、私たちの苦しみの中に神がご自身の目的を果たしてくださると語ります。

パウロはコロサイの信徒たちのために祈ります。彼らが苦しみに遭うとき、その苦しみをとおして神がなそうとされることに自らを明け渡すとき、彼らが喜びをいただくだけでなく、イエスの喜ばれる生き方をしていることとなります。

苦しみが良いことであり、苦しむ信徒の人生に神が何かを成してくださるという考え方は、日本の文化背景では理解しがたいでしょう。けれども、何も苦しみを経験したことがないクリスチャンが神に大いに用いられたというのを私は聞いたことがありません。

苦しいときにも神にしっかりとつながるなら、私たちはイエスの喜ばれる生き方をしています。

4. イエスに喜ばれる生き方の4つめの特徴は、すべてにおいて父なる神に感謝をささげて喜んでいることです。

パウロは、コロサイの信徒たちが感謝をささげるクリスチャンになるようにと祈りました (1 : 12)。

12-14節で、パウロは感謝すべき内容を挙げます。

1:12 また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる神に、喜びをもって感謝をささげることができますように。 1:13 神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。 1:14 この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

イエスは、十字架上で御業を成してくださいました。悪魔の手から私たちに救い、私たちの多くの罪を赦してくださいました。イエスが私たちの罪の罰を負ってくださったからです。この大いなる御業を私たちが本当に本当に理解しているなら、毎日神に喜んで感謝をささげるでしょう。

心の底から救いを理解すれば、私たちは感謝に満ちたクリスチャンになります。

ここにいる私たちOICという教会のためによりよく祈るために、今日のメッセージからどんなことがわかったでしょう。

1. 定期的に祈る必要があります。一日三度祈るというユダヤ人の習慣は私たちにとってもよいものかもしれませんが。朝起きたとき、寝る前はもちろんですが、もし職場で少し時間を取れるなら、昼食のときもよいでしょう。
2. 互いに祈り合う必要があります。私たち皆が、神のみことばを読んで従い、神の知識において成長するように祈り合いましょう。成長にともなう犠牲は従順です。
3. 人生の苦難に遭う時、神によって力づけられるよう祈る必要があります。苦しみは、程度もかたちもさまざまです。健康面や精神面で苦しむ場合もあれば、悪魔から霊の攻撃を受けることもあります。
4. 感謝をささげるクリスチャンになれるよう、互いに祈り合う必要があります。それには、イエスが十字架上で成してくださった御業を心の底から理解しなければなりません。イエスは、悪魔の暗闇の圧政から私たちに救いだし、ご自身の光と愛の御国へ導いてくださったのです。

この後、パウロがコロサイの教会のために祈ったように私たちも全員で祈りたいと思います。